

令和2年度 特色ある教育・経営の取組みを行う私立学校の事例集

## 次世代を担う女子教育の先覚者として

学校法人実践女子学園  
実践女子大学

### 実践女子大学

東京の副都心の一つであり、若者文化の象徴ともいわれる街・渋谷。その玄関口の渋谷駅から徒歩約10分、繁華街の喧騒から離れた旧称「常盤松」の地の一角に、実践女子大学渋谷キャンパスがあります。

学校法人実践女子学園は、明治32年に女子教育の先覚者であった下田歌子女史が「揺籃を揺るがす手は、以って天下を動かす」「女性の清らかな特性をもって、社会の弊を正せ」の理念のもとに、東京府麹町区（現在の東京都千代田区麹町）に創設した実践女学校・女子工芸学校を起源とします。

創設以来の建学の精神である「女性が社会を変える、世界を変える」を具現化すべく、女子教育を「実践」し続けて120年、現在では、大学院・大学・短期大学・高等学校・中学校を擁する総合学園です。

実践女子大学は、昭和24年、渋谷に開学しました。現在は東京西郊の日野キャンパスとの2キャンパス体制で、文学部、生活科学部、人間社会学部の3学部に加え短期大学部を加えた、4800名余りの学生が学んでいます。



実践女子大学渋谷キャンパス校舎

### 【実践女子のキャリア教育】

実践女子大学では、女子教育に特化した大学だからこそできる、「女性のためのキャリア教育」を学びの特長の一つに掲げています。

同大学のキャリア教育は、21世紀型社会で生きぬくためのスローガン「think global act local」に基づき、「まなぶ」と「はたらく」をつなぐことに主眼を置いて、職業意識から能力形成まで、「汎用的能力」「理論」「実践」の3つのステップを

経て、学び、成長できるように設計しています。

- ・「汎用的能力」：社会人基礎力・コミュニケーションスキル・リーダーシップ・社会人マナー等
- ・「理論」：キャリアデザイン・ダイバーシティ・男女共同参画・雇用問題等
- ・「実践」：インターンシップ・産学連携・大学間連携・アクティブラーニング・実務家教員によるPBL型授業等

これら3つをあわせて「キャリア・コア科目」と呼び、1年次から4年次にかけて段階的に各ステップの科目を修得することが全学生に課されています。

同大学では、この「キャリア・コア科目」を横の糸、「専門性」を縦の糸とし、互いを紡ぎ合わせることで、「実践女子らしい」品格、広い視野と相互理解を併せ持つ人材」を輩出できると考えています。

いずれの授業も、就職活動の準備のためのものではなく、「生き方」「人間力」「社会で必要としている本質をとらえる社会人基礎力」を養うことが目標です。講義よりもグループワークを用いて多様な価値観を理解し、人生設計をより明確にするだけでなく、充実した学生生活を送れるようにも設計されています。

### 【キャリア科目の具体例】

平成28年度から導入した3年生向

けの「キャリア開発実践論」は、最も「実践女子」らしさが感じられる、2泊3日の合宿型特別講座です。

学生20名程度に、企業の幹部として企画立案経験のある外部講師が2名、教員が1名、同講座経験者のOG10名程度が参加し、手厚いサポートのもと、学生は課題に取り組みます。

学生は、この講座で、企業の管理職対象レベルのワークショップそのものを体験し、リーダーシップとフアシリテーションを学びます。

学生は少人数のグループに分かれ、次々と提示される膨大な量の課題に共同して取り組んでいきます。おおよそ答えのない問いに、学生達は戸惑いつつもグループ内で議論を続け、答えを模索していきます。こうしたプロセスを経て、最後に課題の答えをグループごとにまとめて発表するまでの過程で、今までの自分の殻を少しずつ破っていくことが、このプログラムの目的です。

学生にとっては非常に難易度が高く、さながら「修羅場体験の場」です。

当初は学内から実施に対して様々な意見もある中でスタートしましたが、ミッションをもって課題に臨むことで、目的意識を忘れずに諦めない姿勢を研鑽することができると講座と、学生・講師双方から評価を得て、今では目玉講座の一つにまで成長を遂げています。

同大学の文学部国文学科の深澤晶久教授は、「受講した学生は、本学のトッ

プランナーとして大きく成長しており、就職活動の成果や卒業後の活躍からもこの講座が本学の特長ある科目として意義のあることを如実に示しています。」と語ります。

### 【初年次から伸ばす主体性講座】

同大学は、「キャリア開発実践論」で、学生の社会人基礎力を伸ばすことにごたえを得ました。このこともあり、令和2年度から、1年生を対象とした主体性講座「実践プロジェクトa」を開始しました。この講座は、ビジネス・社会でも重視されるリーダーシップの形

「自ら動く自主的・主体的な力」を養い、「大学での学び方を入学時に学ぶ」ことを目的としています。内容は、新入生が、企業からの課題に対し2か月半にわたりグループワークを重ね、最後にアイデアをプレゼンテーションし、企業から評価を受けるというものです。パートナーとなる企業は、大学側が「B to C、B to B」のように学生にとつて比較的身近な企業から選定していますが、本講座も企業が直面している課題をそのままテーマとして設定するため、難易度の高い講座です。

初年度の令和2年度は、コロナ禍で、対面授業が一般的にオンラインでの実施となる中、ディスカッションが可能であった数少ない授業の一つでした。学生は、企業担当者からの鋭い指摘

にもめげず、授業時間はもちろん、平均

70時間を超える授業時間外打ち合わせを経て、同大学が想定した以上の結果を出したといえます。深澤教授は、学生の主体性を引き出し、大学での学び方を学ぶという狙いを達成できたことから、同大学のキャリア教育の有効性が確認できたと振り返ります。  
(※同講座は一般社団法人フューチャースキルズプロジェクト研究会が開発した内容で構築されています。)

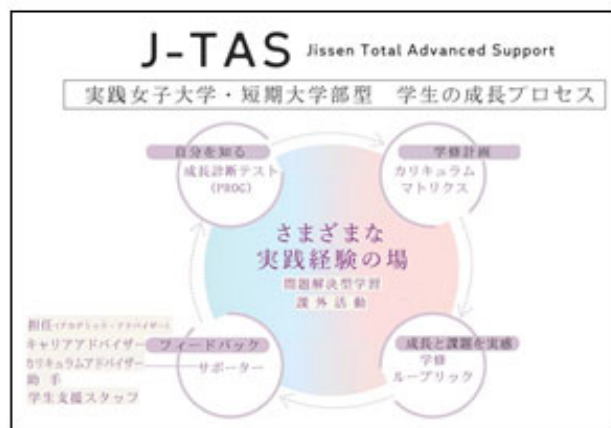
### 【個別支援体制 J・TAS】

同大学はキャリア教育の充実に併せて、学生のキャリア支援体制を整備しています。学生の「自信創出」「成長実感」を掲げた新たな個別支援体制「J・TAS (Jissen Total Advanced Support)」です。大学の入口である入学支援、在学中の学修・生活支援から出口である就職活動、進学支援まで、すべての学生の人生が実りあるものとなるよう、教職員が一体となり学園を挙げ学生の成長を支援します。

J・TASの導入に伴い、学生一人ひとりの在学中の活動記録情報等を教職員が共有し、入学前から卒業後まで、学生を総合的にサポートできる電子カルテのような役割と、在学生への成長プログラムの提供や成長記録を可視化する機能を提供するシステムを稼働しました。

具体的には、「カルテ」成長診断テス

ト「学修ルーブリック」「自己成長記録書」「コミュニケーション」「面談記録」等の機能を軸に構築されます。



また、事務組織改編も行いました。入試、修学、学生生活、就職支援を統合した「学生総合支援センター」を設置し、学生窓口のワンストップ化により、学生の要望はすべて学生総合支援センターで対応できるようになりました。

J・TASでは、学生の成長支援として、学内外のプロジェクトなどに学生が参画できるよう、コミュニケーション情報を集約、学生の積極的な参加により可能性を最大限に引き出すことを目指しています。さらに、これらの経験を確実に成長につなげるためには、「振り返り」が欠かせません。そこで、自分の

成長を客観的に確認するために、学修ルーブリックというツールで半期ごとに学修成果を振りかえり、ポートフォリオに反映します。また成長診断テストを定期的に受けることにより、自分の強みや弱みを客観的に把握することができます。教職員は、それらのデータを確認しながら定期的にフィードバックを行います。この仕組みで、学生が自信を持って人生を切り拓いていくことができるようになります。

J・TASは、稼働してからまだ2年ですが、長年の経験の蓄積の上に作られた、同大学の教育理念を具現化した制度です。

### 【取材を終えて】

女性の活躍がとみに叫ばれ、ダイバシティが重要視されつつある現代において、日本人のアイデンティティを心に秘めながらも、世界で活躍する人間を生み出す原動力は、同校の教育理念でもある「品格高雅にして自立自営しうる女性の育成」にあるのではないかと、感じるようになりました。

創設者のDNAは確かに受け継がれており、これからも女子教育のモデルのひとつとして、時代に即した改革を加味しながら、この社会と世界を変えてくれる人材を輩出し続けてくれることでしょう。

(取材) 私学経営情報センター